

日南海岸におけるサイクルツーリズム推進に向けた取り組み検討報告



辻 大樹*1 村戸 伸行*2 藤井 涼*1

日本工営株式会社 福岡支店*1 日本工営株式会社 大阪支店*2

1. 日南海岸サイクルツーリズム協議会のこれまでの取り組み状況 ～設立背景・目的～

■日南海岸が有する多様な地域資源

①南国宮崎を象徴する自然豊かな景観資源

- 優れた自然景観地(鬼の洗濯岩、堀切峠、いるか岬、都井岬など)、国の天然記念物(青島、御神島)、アフリカスなどの天然帯植物など、自然豊かな観光資源を有する。
- 日南海岸きらめきラインとして日本風景街道に登録。

②神話をはじめとした歴史文化が醸成した個性的な観光資源

- 有名な歴史文化施設(青島神社、龍戸神社等)、歴史的魅力的な古い施設(肥後城跡周辺、堀川御所、杉村博物館、旧肥後城跡等)が存在。
- 道の駅「なんごう」「酒谷」「フェニックス」、港の駅「あいつ」も個性的な観光資源。

■サイクルツーリズムの気運の高まり

①国内におけるサイクルツーリズムの普及・サイクリングと観光を結び付けた地域産業の新たな取組の普及拡大(しまなみ海道等)

- 世界に誇りうるサイクリングルートについて国内外への発信のため、デジタルサイクルルートの登録に向けた検討を開始(H30)

②日南海岸におけるサイクリング利用拡大の兆し

- 日南海岸でのサイクリングイベント充実拡大による地域との交流促進
- サイクリング社会実験など利便性向上への多様な機軸と連携した取組
- クルーズ船寄港によるインバウンド観光における将来的な活用可能性への期待

■東九州自動車道の開通

①東九州道開通による国道220号の交通量減少

- 東九州自動車道(清武JCT～日南東端IC)の開通により、国道220号の交通量減少が予想される。

東九州自動車道の開通

日南海岸サイクルツーリズムによる賑わいの創出を目的とし、『日南海岸サイクルツーリズム協議会』を設立

日南海岸地域を縦走する国道・県道・市道等をサイクリングルートとして位置づけ、その利用を促進させるため、イベント等の企画や環境の整備により、自転車愛好者や観光客等の増加と利便性向上、さらに地域との交流による賑わいの創出等を図ることを目的とし、国・県・市・民間・大学・警察にて設立。

2. 取組対象エリアの概要

- 地域資源を楽しめる10のサイクリングコースを設定。
- 各ルートの起終点(地名)をベースに、それぞれのルート名称を設定。

No.	コース名	起終点	距離(km)
1	宮崎宮崎コース	宮崎駅前～宮崎駅前	83.5km
2	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	82.5km
3	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	81.5km
4	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	80.5km
5	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	79.5km
6	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	78.5km
7	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	77.5km
8	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	76.5km
9	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	75.5km
10	日南宮崎コース	日南駅前～宮崎駅前	74.5km



3. 自転車通行環境の整備②(ルート案内の検討)

- ルート案内のための案内サイン、危険箇所における注意喚起サインを検討。
- 自転車利用者からの見易さを重視したうえで、全国事例などを基に、具体的なレイアウトを検討。

自転車利用者からの意見をもとに日南海岸独自のシンボルマークをデザイン

観光地案内: 主要観光地を案内
設置箇所: 主要観光地手前(道の駅等)

距離標: 主要地までの距離を案内
設置箇所: 主要ルート

分岐標: ルートが2つ以上分岐する分岐点において、それぞれのルート(行先)を案内
設置箇所: ルートが2つ以上分岐する交差点、トンネル正面箇所

交差点標(右左折標): 右左折が必要な交差点箇所において、右左折を案内
設置箇所: 右左折が必要な交差点

安全対策(自転車への注意喚起): 危険箇所があることをサイクリストに対して注意喚起
設置箇所: トンネル出入口手前、急な勾配箇所、急降箇所

※自転車への案内は、自転車利用者からの視認性に優れた路面標示で実施。

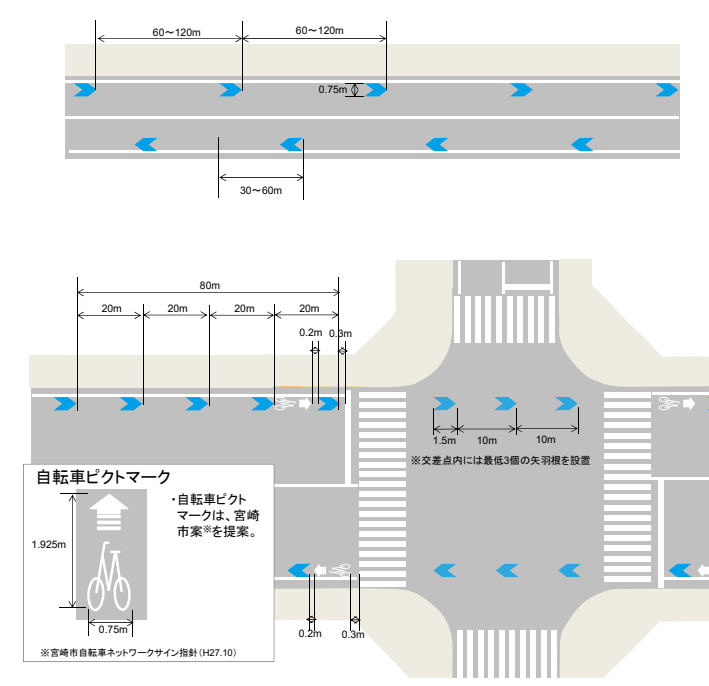
4. サイクルツーリズム推進(サイクルマップの作成)

- 地域の観光資源、景勝地、走行ルートを案内するためのサイクルマップを作成
- 表面は、地域活性化を目的に、ポタリング(散走)情報で構成し、地域のきめ細かな情報を盛り込み、裏面は、ルート全体マップや宮崎県のアクセス情報や輸行情報を掲載。



3. 自転車通行環境の整備①(自転車通行空間の検討)

- 全国事例、ガイドライン等を参考に、走行性、安全性、地域性に配慮した通行空間の整備方針を立案。
- 単路部では、矢羽根(W=0.75m)を「60～120m間隔」で「上下の干鳥配置」で設置。
- 交差点部では、自転車利用者の安全性を考慮し、交差点部流入部では「20m間隔」、交差点内は「10m間隔又は3個以上」の密の間隔で矢羽根を設置し、ドライバーや自転車利用者に対して注意喚起を行う。交差点流入部、交差点流出部に「自転車ピクトマーク」を設置。



5. 検討結果と今後の課題

- H30年度は、全国の事例などをヒアリング調査で確認し、自転車通行空間とルート案内の整備方針を協議会を通じて決定。
- また、サイクルマップについても、地域の資源をアピールしつつ、サイクリストの方への必要な情報提供内容をヒアリング調査で確認したうえでデザイン・記載情報等を検討し、協議会を通じて決定。
- 今後は、現場に自転車走行環境(矢羽根等)を整備した際の課題対応、サイクルマップの更新体制の検討が必要。